

経営比較分析表（令和6年度決算）

千葉県 八幡水道企業団

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A5	自治体職員
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家賃料(円)	
-	81.48	89.54	4,532	

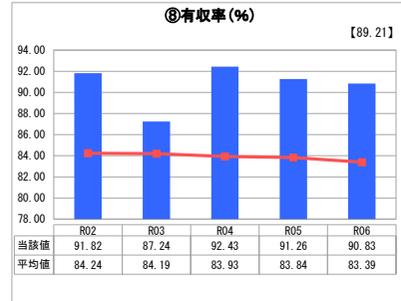
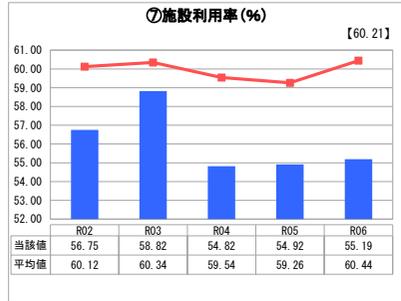
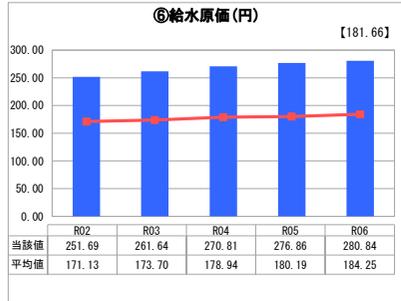
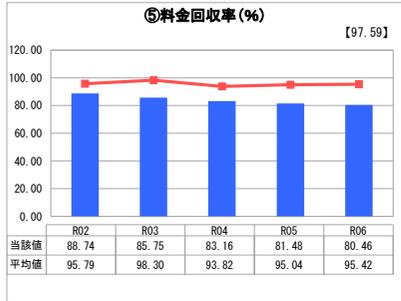
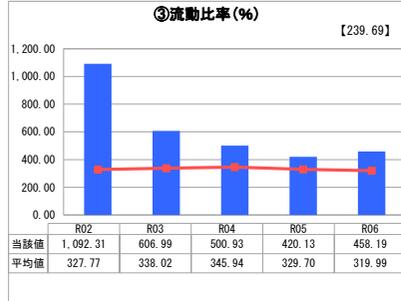
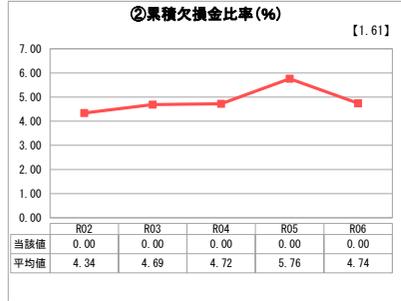
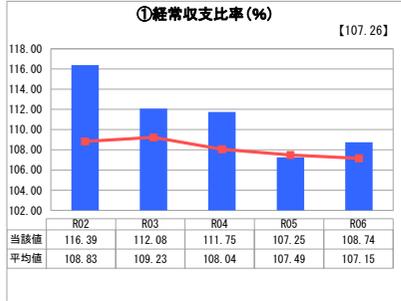
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
-	-	-
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
37,152	119.51	310.87

グラフ凡例

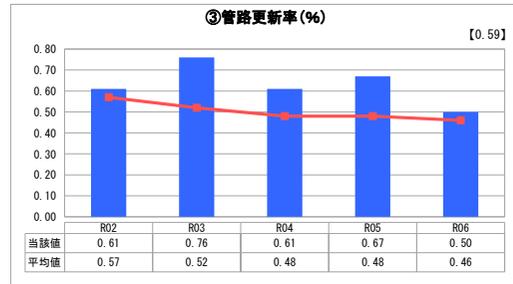
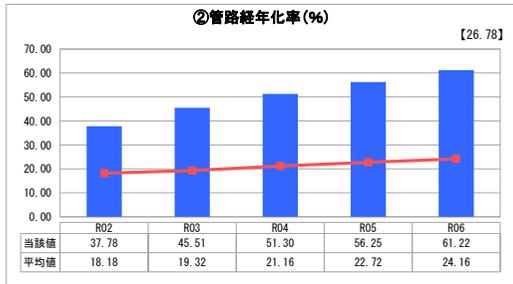
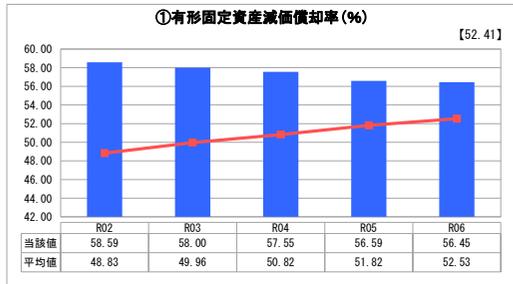
- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)

【】 令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

・令和6年度の経常収支比率は、108.74%となっており、前年度と比較して1.49ポイント増加している。これは収益において、一般会計からの市町補助金及び県補助金が増加したことが考えられる。

・累積欠損金比率については、累積欠損金が出ていないため、昨年度と同様に0%である。

・流動比率及び企業債残高対給水収益比率については、他団体の平均値と比較して良好な数値であるため、剰余資金や資金調達能力という面で多少の余裕がある状態といえる。

・料金回収率は、80.46%で他団体平均値と比較して低い水準となっている。これは、給水原価が他団体よりも高水準であることが主な要因である。

・施設利用率は55.19%であり、今後の施設更新の際には、ダウンサイジングを検討する余地がある。

・有収率は、類似団体平均値を上回っており、比較的安定した水の供給ができていと思われる。

2. 老朽化の状況について

・有形固定資産減価償却率は、近年減少傾向にある。これは、平成29年より配水管更新工事が始まったからであり、この傾向は今後もしばらく継続するものと考えられる。

・管路経年化率は、創設期に布設した配水管が近年一気に耐用年数を迎えていることにより、他団体平均値を大きく上回る結果になっている。

・管路更新率は、0.50%で他団体平均値を上回っている。今後も更新工事を実施していき、更新率の向上に努めたい。

全体総括

・料金回収率が100%を割っていることから、給水収益のみでは運営できていない状況である。そのため、料金単価や料金体系の見直しを検討していかなければならない。

・給水原価については、他団体平均値より高水準であり、費用の削減を図りたいところではあるが、費用の8割を受水費と減価償却費が占めているため、大幅な削減は難しい。

・管路経年化率は、今後も上昇していく見込みであるため、国庫補助金や企業債を活用しつつ長期的な収支バランスを見通して、計画的に更新工事を実施していくことが必要である。